

【都市と美術研究所】 2023 年 3 月 2 日（木）研究会 発表要旨

天王洲のアートコンプレックスにてギャラリーを営業すること

Operating a Gallery in the Tennoz Art Complex

長瀬夕子（小山登美夫ギャラリーディレクター）

Yuko Nagase, Tomio Koyama Gallery Tennoz

小山登美夫ギャラリーは 1996 年に江東区佐賀にあった、昔は米の取引所であった古い鉄筋の雑居ビルの 2 階にオープンした。その後、同ビルのマンション開発業者への売渡のため 2002 年に中央区新川に移転。その後またこのビルのマンション開発業者への売渡のため 2005 年に江東区清澄の丸八倉庫ビルに移転。10 年間このビルで営業を続けるも、またも同ビルのマンション開発業者への売渡のため 2015 年渋谷区千駄ヶ谷に移転、直後に六本木のギャラリーコンプレックスの話が持ち上がり、1 年で港区六本木の現ギャラリーに移転し今に至る。この移転の遍歴の間にもさまざまな場所に支店をオープンした。代々木八幡（最初にオープンした支店、2003 年オープン。クローズはまったく覚えていなかったのて調べてみたがわからなかった）、銀座（おそらく 2006~2012 年）、代官山（2007~2009 年）、京都（2008~2013 年）、シンガポール（2012~2015 年）、渋谷ヒカリエ（2012~2019 年）、そして天王洲のギャラリーコンプレックスへは 2022 年 3 月に、六本木以外での久しぶりの常設展示スペースをオープンした。コロナ禍の直前に渋谷ヒカリエのスペースをクローズし、それ以降六本木のスペースのみで営業を続けてきたが、倉庫兼オフィスで使用していた田町の倉庫ビルの改修工事のため転居先を探さなくてはならなくなり、それが機会となって天王洲へ移転した。移転先である天王洲ギャラリーコンプレックスでは倉庫とオフィスとしての使用だけでは借りることができず、展示スペースをオープンすることが必須条件であった。その条件下での新しいスペースのオープン、という若干消極的な姿勢ではあったものの、コロナ以降のアート業界の劇的な変化と時を同じくしていたため、そこを含めて天王洲にてギャラリーを営業していることを考えてみたい。

【略歴】 1972 年宮城県生まれ。多摩美術大学美術学部芸術学科中退。1999 年より小山登美夫ギャラリーにて勤務。現ギャラリーディレクター。ギャラリーでの展示プログラムのみならず、国内外での展覧会やプロジェクトに参画。また国内、海外で行われるアートフェアを担当。アートの蚤の市、バザールを主催。